

しんぶん **大村洋子**

ヨーコ・ヨコスカ・ストーリー♪

2017年 3月30日 第135号

三浦半島地区委員会 公郷2-21-1

046-851-1123

大村・携帯 090-1107-0498

ブログ [大村洋子](#)→検索



今回は全部、横子さんと大村の会話です。ココからご覧ください。

最終日・緊急質問しました 市長の割引券つき名刺 問題

横子さん「大村議員、この前、テレビを見ていたら、いきなり吉田市長が『名刺』のことで神妙な顔で出ていたわ。いったい、何が問題なの。」



大村「ああ、それは、『割引券つき名刺』のことですね。議会の最終日に緊急質問を行ったことも含めお伝えしますね。」



横子「割引券つき名刺？いったい、それ、何なの？」

大村「市長の名刺の裏面に、猿島航路 1,300 円と軍港めぐり 1,400 円の 10%割引サービスが書いてあったのです。」

横子「それって、クーポン券みたいね。」

大村「まさに、そうですね。市長の名刺を見せると 130 円、140 円の割引になるという意味です。」

横子「今までにどのくらい配られたの？」

大村「全部で 2,900 枚作って、2,600 枚くらい配ったそうです。直近では 6 枚の種類のうち、割引券つきのものは 2 種類。」

横子「そんなに配ったってことはすでに使われたのかしら。」



大村「いいえ、当該の業者に確認したところ、1 枚も使われていなかったそうです。」

横子「それにしても、特定の業者の割引券が公の市長の名刺についているなんてズルいじゃないの。」

大村「ズルいというより、これは公職選挙法という法律違反になる可能性をはらんだ重大な行為なのですよ。」

横子「市民から選ばれた市長が法律違反？」



大村「そう。だから、見逃せないと思って、緊急質問をしました。」

横子「でも、私たちにはよくわからないわ。いったい、何がポイントなの？」

？

大村「割引つき名刺を配るということは、すなわち、金券を配っているようなものです。『寄付行為』というのですが、政治家はやってはいけないのです。」

横子「でも、市長はそういうことを知らないでやっていたってことも考えられるわよね。」

大村「そうですね。でも割引つき名刺を配り始めた 2010 年 11 月の約 1 か月後に、市長自身が選挙管理委員会へこの名刺が公職選挙法違反にならないかと問い合わせをしているのです。」



横子「自分で問い合わせしていたの？」

大村「そうです。市長自身がです。」

横子「じゃあ、忘れるわけないわね。」



大村「いいえ、覚えてないそうです。」

横子「それは、おかしい。自分で問い合わせしているのに忘れるなんて、考えられない。」

大村「選挙管理委員会は市長から問われたので、事務局長と課長が



2人で直接市長にあって、回答したそうです。」

横子「選管ははっきり覚えていたのね？」

大村「選管には当時の記録がしっかり保管されていました。」



横子「ということは、市長が問い合わせたのは動かしがたい事実ね。」

大村「そうです。覚えていないという市長こそ、信じられません。」

横子「選管からは当時、どんな回答だったの？」

大村「選管ははっきりと『公職選挙法の寄付行為にあたる可能性があるので、お控えください。』と回答しているのです。」



横子「そこまではっきり言われたのに、止めなかったのね。」

大村「そうです。市長は明らかに分かっている、名刺を配り続けていたのです。私は極めて悪質だと思います。」

横子「だから、今回の異例の緊急質問となった・・・」



大村「そうです。私の他に2人、計3人が緊急質問し、ことはそれで収まらず、「辞職勧告決議案」まで提案されました。」

横子「辞職勧告決議ってなんですか？」

大村「文字通り、あなたは市長を即刻お辞めくださいと議会が突きつけるものです。結果として24対15で通りませんでした。」

横子「共産党はどんな態度だったの？」

大村「私たち3人は辞職勧告決議案に賛成しました。私は緊急質問を行って、心底、今の市長に今後も横須賀を任せる事はできないと強く感じました。」



横子「賛成したのは共産党と？」

大村「自民党の8人と無党派の4人。」

横子「自民党と共産党の意見が一致したなんて珍しい。」

大村「そうかもしれませんね。辞職勧告決議案は通りませんでした、その後の問責決議案は通りました。」

横子「問責決議案？」

大村「こちらは吉田市長に対してなんと3度目です。問責決議とはこちらにも名前の通り、市長の責任を問いますよと議会が一致して出すものです。これ自体、議会から市長に突き付けている重たいものなのですが、市長はいっこうに反省することもなく、繰り返しています。」



横子「辞職勧告決議は通らなかったけれど、問責決議は3度目が通った・・・」

大村「そう、横須賀市政としては、まったく恥かしい話です。私は緊急質問の一問目で「怒りを通り越して呆れ果てました。」と言いました。」

横子「横須賀のイメージダウンになっちゃうわ。」



大村「外から見たら、横須賀、何やってるんだってことになりますよね。市民にも職員にも悪影響だと思います。」

横子「たかが名刺問題と言えないわね。」

大村「これは、重大な問題なんです。市長はこの割引つき名刺を配っている時期と同じときに『市長及び副市長の服務及び倫理に関する規範』というルールを自分で作っています。その中には『信用失墜行為の禁止』というのがあるって、今回の件はまさにこれに当たると思います。」



横子「自分でルールをつかって、自分でルールを破ってる。」

大村「緊急質問でそのことを問うたら、今回のことは『信用失墜にはあたらない』という答弁でした。どこまで自分に甘いのでしょうか。呆れます。」

横子「一連の流れがわかったわ。今後も横須賀市政から目が離せないわ。」

大村「今回のことで、吉田市長が市長の資質に欠けているということがよくわかりました。間違いと気づいていて、なおも名刺を使い続けそれをマスコミに取り上げられると『記憶にない』と言って言い逃れる。悪質極まりないと思います。多くの市民にこの事実を伝えます。」